

一年の無病息災を祈る

正月を彩る子供たちの行事「どんど焼き」が、一月十四日、市内各地で行われました。このどんど焼きは、正月に飾った門松やしめ飾りを焼いて、一年間の「無病息災と平安」を祈る行事です。杉、松、竹などを高く積み上げ、火をつけると炎が勢いよく燃え、集まった父兄や子供たちから歓声が上がっていました。この火で焼いたマユ玉ダンゴを食べると一年間かぜをひ



野口のどんど焼き

かないといわれており、集まった人たちは各家庭から持ち寄ったダンゴをシラハギの木にさし、焼けるのを待ちかねたように食べていました。この行事は、無病息災を祈願する行事でしたが、最近では、

天然氷の切り出し

日光地方の冬の風物詩である天然氷の切り出しが盛んに行われています。

例年ですと、一月上旬が切り初めですが、今年は朝夕の冷え込みが厳しいため、十二月に一回切り出し、一月にも二回から三回の切り出しをしました。氷の切り出しは、寒風の吹きすさぶ中の作業とあって、ほお

親子のコミュニケーションにも役立つとあって、各地で実施するようになってきています。日光市でも、今年は二十五か所（消防署へ届出分）で実施しています。

も、氷を切る手も真っ赤にしての作業。厚さ十五センチに張った氷を電気ノコギリで縦八十五センチ、横四十五センチ（重さ約四十五キロ）

に切り、オガクズにくるんで保管しておきますが、天然氷の味の良さは格別とあって、需要の多い夏場には、ホテルや旅館、飲食店などから引っぱりだか



厳しい寒さの中で行われる天然氷の切り出し



見事に完成した氷冠

氷と光のファンタジー

「氷と光のバラード・アイスクリスタルファンタジー」と銘打った氷の芸術展が、二月末までの予定で中宮祠大平広場で開かれています。

この氷の造形は、まず、鉄パイプで骨組みを作り、このパイプに水をまいて凍らせて完成させたものですが、完成までに約二十日間かかりました。大きさは、直径八センチ、高さ八センチの円筒形氷冠三基で、中央の氷冠には長さ八センチの氷の滑り台がつけられています。

また、この氷の芸術を夜でも楽しんでもらうために夜間照明を取り付け、夜空に浮き出る三基の氷冠の幻想的な様は、まさ

に「氷と光の芸術」そのものです。

この氷の芸術展は、中禅寺温泉観光協議会が、奥日光地区の冬期の観光振興対策として、竹中敏洋氏（造形作家・北海道恵庭町）に制作を依頼して始めたものですが、同協議会は「今年が試験的に実施したものです。これが成功すれば来年はもっと規模を大きくして、冬の観光の目玉にしていきたい」と話していました。また、斎藤市長も、「同地区の観光客誘致には、絶好の事業であり、市としても積極的なバックアップをしていきたい」とこの事業の成功に期待を寄せていました。